

秋田大の眞鍋教授に小川秀興賞 皮膚科研究で国際的な業績

2019年1月30日 掲載



小川秀興賞を受賞した眞鍋教授＝秋田大医学部

皮膚科の基礎研究領域で国際的に優れた業績を挙げた研究者に贈られる本年度の「小川秀興（ひでおき）賞」（対象者1人）に、秋田県から初めて秋田大医学部皮膚科・形成外科の眞鍋求教授（65）が選ばれた。先月、都内で授賞式が行われ、主催する「一般財団法人リディアオリリー記念ピアス皮膚科学振興財団」（事務局・大阪）から賞状などが贈られた。

眞鍋教授は、皮膚がんや脱毛症、先天性皮膚疾患の発症メカニズムについて、長年研究に取り組んできたほか、日本皮膚悪性腫瘍学会などを主宰し、日本の皮膚科学研究に多大な貢献をしたことが評価された。

眞鍋教授は「地道に研究活動が続ける姿勢が評価され大変光栄。受賞は私の研究人生の到達点ではなく、中間点にすぎない。これを励みに、今後も後進の研究指導にまい進したい」としている。

同賞は1983年度にメラニン研究の第一人者だった故清寺眞東北大教授の功績を記念し、「清寺眞記念賞」として創設された。2010年度に研究者の対象を拡大し「小川（秀興）・清寺記念賞」と名称を変え、16年度から「清寺眞記念賞」と「小川秀興賞」に分かれた。小川氏は、同財団と順天堂大の理事長で皮膚科学の国際的指導者。